

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	①-27	実施計画番号	162	事業開始年度	平成26年度
事務事業名	市民交流プラザの運営			事業終了年度	
担当課名	まちづくり支援課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	幅広く市民が集い、学習・福祉・市民活動等、様々な活動を通じて交流・連携を深める施設として、市民交流プラザを管理・運営する。				
事務事業の目的	市民交流の促進を図るとともに、にぎわいの創出等の拠点としての施設を運営する。				
実施状況	26年10月に開館し、平成26年度は、来館者数約8万4千人となった。平成27年度は、19万人程度の来館者が見込まれる。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	2	1.5	1.5
	活動日数(日)	252	252	252
	人件費(千円)	18,144	13,608	13,608
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)		11	11
	活動日数(日)		231	231
パートタイマー	人件費(千円)	7,583	10,622	10,622

H26は、臨時1人×253日、臨時4人×127日、パート5人×126日

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		31,765	31,616	31,616

【指標】

活動指標	活動指標名①		施設開館日数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			日	163	360	359	
	活動指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
					0		
成果指標	成果指標名①		施設入館者数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	目標値	72,000	72,000	180,000
				実績値	83,925	190,000	
				達成度(%)	117%	264%	
	成果指標名②		施設稼働率				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		%	目標値	60.0	60.0	68.0	
			実績値	62.7	68.1		
			達成度(%)	105%	114%		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民活動の拠点・市民交流の場として、平成26年10月から稼働している市民交流プラザは、公共施設として役割を果たしている。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	市民活動の拠点・市民交流の場として、平成26年10月から稼働している市民交流プラザは、公共施設として役割を果たしている。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
市民活動の拠点・市民交流の場として、平成26年10月から稼働している市民交流プラザは、公共施設として役割を果たしている。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A 2							
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施設入館者数は、順調に伸びており、部屋の利用者のみならず、みちの広場のコンセプトのもと、その役割を果たしている。施設稼働率は、部屋の貸し出し割合から算出しており、前年度より稼働率も伸びている。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	施設入館者数は、順調に伸びており、部屋の利用者のみならず、みちの広場のコンセプトのもと、その役割を果たしている。施設稼働率は、部屋の貸し出し割合から算出しており、前年度より稼働率も伸びている。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	施設入館者数は、順調に伸びており、部屋の利用者のみならず、みちの広場のコンセプトのもと、その役割を果たしている。施設稼働率は、部屋の貸し出し割合から算出しており、前年度より稼働率も伸びている。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2							
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2							
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ほぼ年中無休で、朝から夜までの稼働のため、多くの人員配置が必要であるが、正職員は最小限の1.5人に止めており、その他の人員はパートタイマー等で補っており、これ以上のコスト削減の可能性は薄い。その他の管理業務は、一部の業務を委託している。指定管理者制度については、検討の結果、コスト削減効果が薄いことなどから採用しない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	ほぼ年中無休で、朝から夜までの稼働のため、多くの人員配置が必要であるが、正職員は最小限の1.5人に止めており、その他の人員はパートタイマー等で補っており、これ以上のコスト削減の可能性は薄い。その他の管理業務は、一部の業務を委託している。指定管理者制度については、検討の結果、コスト削減効果が薄いことなどから採用しない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	ほぼ年中無休で、朝から夜までの稼働のため、多くの人員配置が必要であるが、正職員は最小限の1.5人に止めており、その他の人員はパートタイマー等で補っており、これ以上のコスト削減の可能性は薄い。その他の管理業務は、一部の業務を委託している。指定管理者制度については、検討の結果、コスト削減効果が薄いことなどから採用しない。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2							
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2							
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民は、施設の利用が原則無料であり、誰でも利用可能なくみとなっていることから公平である。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	市民は、施設の利用が原則無料であり、誰でも利用可能なくみとなっていることから公平である。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
市民は、施設の利用が原則無料であり、誰でも利用可能なくみとなっていることから公平である。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

平成26年10月から稼働している市民交流プラザは、入館者数、施設利用率も伸びており、市民活動の拠点・市民交流の場としての役割を果たしており、中心市街地にもにぎわいをもたらしていると考えている。今後もコスト削減を図りつつ、多様な市民ニーズに応えられるよう管理運営に努める。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

市の直営により、市民交流プラザの管理運営を適性に進めるものとする。市民活動、市民交流の拠点施設として、幅広く市民が利活用できるように利用率の向上に努め、また、ニーズ把握や団体間の連携を促し、さらには、にぎわい創出や中心商店街事業との連携を図る。